

行政視察報告書

令和 3年12月20日

会派名

会派代表者 尾関 昭

(参加者: 尾関 昭)

行政視察の結果について、次のとおり報告します。

①

年月日	令和 3年11月19日 (金)
視察時間	14:00~17:15
視察先	大阪府泉大津市役所
視察項目	官民連携の取組について 1. (仮称)小松公園整備事業について 2. 臨海部を活用した取組について 3. 新図書館「シープラ」について 4. あしゆびプロジェクトについて 5. 本庁舎内BGM導入による実証実験について

②

年月日	令和 年 月 日 ()
視察時間	
視察先	
視察項目	

③

年月日	令和 年 月 日 ()
視察時間	
視察先	
視察項目	

行政視察報告書

①

年月日	令和 3年11月19日 (金)
視察時間	14:00~17:15
視察先	大阪府泉大津市役所
視察項目	官民連携の取組について 1. (仮称)小松公園整備事業について 2. 臨海部を活用した取組について 3. 新図書館「シープラ」について 4. あしゆびプロジェクトについて 5. 本庁舎内BGM導入による実証実験について
■目的 若手の市長が自らトップセールスの末に実現に至った、各種民間企業との取組(事業)について、その経緯や現時点までの実情・今後の展開について、実体験を元に担当課ならびに市長自ら説明を頂ける機会に恵まれましたので、当市の行政運営にも活かせるよう調査ならびに研究を行うこととしました。	
■内容 官民連携の取組について 秘書広報課 宮崎 嘉一 様 ○官民連携の目的として、①効率的・効果的な歳出の実現、②質の高い市民サービスの持続的な提供、③全国共通の社会課題を当市より解消していく事に主眼が置かれ、各種展開がなされている。 ○官民連携のベースとなるもの(背景) ①「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」参加によるもの ②2025年大阪・関西万博のプログラム/共創パートナー登録に起因するもの ○『官民連携デスク』の設置⇒対話を通じた新たな価値を創造する ○ESG経営の潮流 1. (仮称)小松公園整備事業について 都市づくり政策課 八木 勇司 様 ・市民会館の跡地利用として、基本計画・セミナー・ワークショップ(計3回)、設計ワークショップ(計4回)、公園フォーラム、使いこなしサミットを経て、次年度より工事着工予定、令和5年度開園予定。 ・施設規模 全体 35,000㎡(芝生広場 5,000㎡・公園用地ゾーン) ・公園用地と民間活用用地をゾーニングして、予算の圧縮にも努めながら、活気ある施設が構成出来るように計画し、まち全体の魅力向上と都市部ブランド「アビリティタウン」の形成を先導するよう、基本計画に則った施設作りを目指す。 ・公募による名称募集も同時進行	

・ 予算規模

市民協働における費用 2,000 万円

設計費 7,000 万円

整備費 90,000 万円

・ 国庫補助

「都市再生整備計画事業（社会資本整備総合交付金）」

公用地部分の事業費のうち 50%

・ 用途地域 第 2 種住居地域（制限内の用途に限定）

2. 臨海部を活用した取組について

地域経済課 檜 光優 様

・ 大阪港湾局の土地を市が使用許可をとり、市の第三セクター（泉大津マリン(株)）が借り入れる方式をとる事業。そして「実証実験」として第三セクターから公募選定された運営事業者に託した方法により事業展開を行っている。

○ 1 つめ、N GRILL による海浜バーベキュー

第 1 回 R2. 10. 15~12. 4 580 名利用

第 2 回 R3. 6. 26~11. 18 7,839 名利用

○ 2 つめ、海釣り公園（港湾部のにぎわい創出に向けた取組）

1 年目 178 名

2 年目 338 名

3 年目 412 名

○ 3 つめ、水質の浄化実証実験（民間企業 3 社合同事業）

フィッシングマックス社、一般社団法人 530 運動、泉大津マリン(株)

・ 今後の展開は…

先端緑地 …体験型の水辺利用

多目的緑地・広場 …屋外コンサートをはじめとした各種イベント

汐見公園（海釣り公園に隣接）…屋外レジャー、スポーツイベント

3. 新図書館「シープラ」について

・ 駅前ショッピングセンター「アルザタウン」4 F に令和 3 年 9 月にオープン

賃料 4,600 万円/年

総工費 6.5 億円

うち国庫補助金 2 億 9,400 万円

図書購入費 3,300 万円/年

雑誌購入費 1,000 万円/年

・ ロボットを活用した図書館における連携

株式会社 H C I（市内企業）と令和 3 年 6 月 8 日に協定締結

館内における行方不明本の探索をロボットによるフルオートメーションで行う
来館者の案内（目的の図書まで）をロボットにて行う

⇒ 大幅な人工の削減

実証実験ののち、正式採用される見込み

4. あしゆびプロジェクトについて

- ・平成30年度から
- ・子どもの8割の足部に何らかの異常があるという調査結果をベースに
- ・プログラムを展開することにより、
 - ①健康寿命の延伸 ②運動能力の向上 ③扶助費の削減という、社会課題を解決していく
- ・取組1 「あしゆび市民モニタリング事業」(インソールメーカー)
- 取組2 足袋シューズの無償提供、あしゆびを使った運動の導入、効果検証
(大阪体育大学+民間事業者)
- 取組3 介護予防サークルを対象に効果検証
民間スポーツクラブと提携し「筋力レベルアップ教室」を開催
- 取組4 普及・啓発活動

5. 本庁舎内BGM導入による実証実験について

- ・ユニバーサル ミュージック合同会社との協定締結 (R3.10.14)
- ・マスクングによるイメージ効果と来庁者サービスの向上、職員の業務効率改善を狙った実証実験

■所感

泉大津市の各種の取組では、行政と民間企業が巧みに連携し、市としての費用負担を極力抑えながらも、効果的で魅力ある公用地の使い方を提言、実行していた。

例えば、府の文化会館と市の文化会館が二重用途として併存されていた箇所は、一方を廃止して残りの土地を全く別の形で官民連携により、新たなにぎわいの創出を目指し、市民協働の上、新施設の建設に挑もうとしている。(仮称)小松公園)

令和3年9月にオープンした新図書館では、地元の産業に重点を置いた資料や図書の展示、その傍らでは販売ブースも設け、行政が全面的にバックアップしている姿を具現化していた。

首長によるトップダウンのようにも見えなくはないが、日頃からのシティセールスの賜物として、民間企業からの事業提案などが多く寄せられ、一地方行政ながらも世界的にも名の知れた大企業による実証実験(庁舎内BGM)や、先駆的な活動(あしゆびプロジェクト)は、来訪者にとっては新鮮であり、何処の真似でもない独自性をもった活動であり、視察する者としては終始、興味をそそり心の踊る内容ばかりであった。